



1 単元名 「ふゆのたのしさ 見つけよう」

2 単元構想

<p>単元目標</p>	<p>身近な自然を観察したり、それらを利用して遊んだりする活動を通して、季節の違いや特徴を見付けたり遊びを工夫して作ったりすることができ、自然の様子や四季やそれに伴う生活の変化、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。</p>
<p>児童の実態</p>	<p>幼稚園や保育所等では、それぞれの園庭、近くの公園や野原などで、季節ごとに氷作りや霜柱探しなどを経験してきた。その際、友達がしている遊びに興味をもち、様々な自然遊びに親しんできた。</p> <p>休み時間の校庭遊びでは、鬼ごっこや遊具を用いた遊びを好む児童が多い。生活科「きれいにさいてね わたしのはな」では、あさがおを育てる中で、「つるが自分でどんどん巻き付いている」「朝は咲いていたのに帰るときには閉じていた」と様子に気付く姿が見られた。「人・もの・こと」の視点で分類したうちの「もの」に関する気付きが増えてきている。</p>
<p>教師の願い</p>	<p>学校生活に慣れ、2年生への準備期間として児童間の関わりを増やしていきたい。本単元の学習の中で、自然で遊んだ後の交流を繰り返し取り入れることで、友達と一緒に遊び、遊びを発展させてみたいという思いを強めていきたい。また、友達との関わりに必然性や意欲をもたせることで、国語科の「話す・聞く」力を活用し、更に力を高めることを目指したい。</p>

3 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元における評価規準	(1)	①自然を用いて楽しく遊べることや自然の特徴や不思議さに気付いている。	①自然を観察して今までの季節と比べたり、違いを見付けたりしている。	①友達と一緒に自然を見付けたり、それらを使って遊んだりしようとしている。
	(2)	②遊びを工夫したり、遊びを創り出したりする面白さに気付いている。	②季節を生かした遊びで何ができるかを見通して、試したり工夫したりしている。	②自分たちの遊びや生活が、身近な自然や季節の変化に関わっていることを実感し、それらを取り入れて生活を楽しくしようとしている。
	(3)	③季節によって遊びや生活が変化することに気付いている。	③他の季節と比べて、それぞれの季節の特徴を見付けている。	③季節の特徴を生かして楽しく遊びたいという願いをもって、それらと触れ合おうとしている。



5 単元の指導計画・評価計画（12時間）

時	・学習活動 ◆まとめと次への見通し 「期待する児童の振り返り」	○学びどころ ☆地域との関わり ★教科との関連	評価の観点		
			知	思	態
(1) ふゆを 見つけに いこう (2時間)					
1	小単元の問い：「さむいふゆの日に どんないふゆが楽しめるかな？」 ・校庭に出て観察し、友達と一緒に自然と触れ合って遊ぶ。	○冬の自然と触れ合う中で、これまでの季節との違いに気付く。	①	2	2
2	・見付けて気付いたことを記録する。 ◆冬を探したら白い息や霜柱、冷たい風を見付けた。葉や花、虫が少なかった。「寒い冬でも外で楽しく遊ぶ方法を試して、『きせつとなかよしぶっく』に冬の分を書き足したい。」	○冬の自然を使って遊びたいという気持ちをもって単元の計画を立てることを通して、学習の見通しをもつ。 ☆今までと姿を変えた校庭の自然 ★国語科「こんなことがあったね」			
(2) ふゆと なかよく ならう (9時間)					
3	小単元の問い：「ふゆのかぜの日にも たのしくあそぶには どうしたらよいか？」 ・冬の風の中でどうしたら楽しく遊べるか考えることを通して、風に関心をもつ。	○友達と一緒に遊ぶことで、新しい冬の遊びを見付けたり、工夫を思いついたりすることができるようにする。	②	②	②
4・5	・風で動くおもちゃの工夫を考えながら遊ぶ。	☆風に繰り返し関わる場を設けて、気付きや工夫を促す。			
6	・風で動くおもちゃを使って遊んで面白かったことや気付いたことを生活科カードに表現する。	★国語科「しらせたいな、見せたいな」			
7 (本時)	・もっと楽しく風と遊ぶための工夫を伝え合い、より楽しくしようとする。	○風遊びを充実させるという目的を押さえ、交流する意欲を高める。			
8	・友達から教えてもらった工夫を生かして風を使って遊ぶ。	○前時にした工夫を生かして、冬と関わる楽しさを感じさせる。			
9	小単元の問い：「こおりや ゆきで たのしくあそぶには どうしたらよいか？」 ・氷や雪を使った遊びを話し合い、写真や実物を用いて確認する。	○風と同じように、氷や雪を使った遊び方を考えて試す。			
10	・校庭で、雪や氷を使った遊びを行う。	★国語科「としょかんとなかよし」			
11	・学校内で寒い場所を探したり、氷ができそうな場所を考えて話し合ったりする。 ・遊んだことを生活科カードに表現する。 ・楽しく氷や雪と遊んで気付いたことを伝え合い、氷や雪がある日も楽しく遊べるようになる。 ◆こんな遊び方をして、冬を生かして楽しく外遊びをしたい。 「風や氷、雪を使って遊ぶのが楽しいな。」	○氷や雪を使った遊びを考えて気付いたことを表現する。次回交流する見通しを立てておく。 ★国語科「くわしくきこう」			
(3) なにを かんじたかな (1時間)					
12	小単元の問い：「それぞれのきせつには、どんな とくちょうがあるのかな？」 ・これまでの学習を振り返り、気付いたことや楽しかったことを絵や文にしてカードにまとめ、友達と伝え合う。 「『きせつとなかよしぶっく』で、それぞれの季節の特徴が分かった。これからはそれぞれの季節と仲良く遊びたいな。」	○これまでのカードや写真を振り返り、校庭の様子を通して、季節の違いや特徴をつかませる。	③	③	③

## (1) 子どもと学びの結び

●遊びから始める学び

- ・生活科「きせつとなかよし はる・なつ・あき」を基にすることで、自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりしたくなるように単元の導入を設定する。

●遊びの中での学び

- ・遊ぶ前に教師がシンプルなもの为例示することで、作る見通しをもち、子どもたちが工夫することができるようにする。
- ・自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする際に、試行錯誤しながらできるような環境を整える。

◎「きせつとなかよしぶっく」の作成

- ・体験して気付いたことや工夫したことをカードに記録する活動を、単元を通して行い、より良くしたいという児童の主体性を引き出す。

## (2) 子どもと子どもの結び

◎遊びの中での交流

- ・遊びながら試行錯誤する中で、子ども同士で教えたり助け合ったりし、安心して学習できるようファシリテートする。
- ・考えの交流時に互いの良さに気付かせるようにして、自己肯定感を高める。

◎グループ作り

- ・種類ごとにグループをすることで、グループ内で協力し、グループ外と教え合っ  
て考えを広げる必然性をつくる。

◎「きせつとなかよしぶっく」の充実

- ・単元を通してカードを作成し、自分のものを充実させるために、互いのカードを取り入れてよいことにし、交流する意欲を高める。

## (3) 資質・能力の結び

## 【国語科】

- 自然を観察したり触れ合ったりして気付いたり考えたりしたことを、カードに文章で詳しく書く。(書くこと)
- ◎自然と関わったことについて友達が考えたことを聞き、話に合った質問を考えて詳しく聞き返す。(聞くこと)

## (4) 教科と教科の結び

## ●(もの) 自然

→ (図画工作科)「さわりごころ はっけん」

## ●(人) 友達との協力

→ (体育科)「ボールゲーム」

### (5) 地域との結び

#### ●校庭から学校外への広がり (もの)

- ・自然という視点をもって地域を見直すことで、地域とのつながりを意識し、自分の住む地域への愛着をもつことができる。

#### ●自然の再発見や新発見 (もの)

- ・家の周辺や通学路にも意識を向け、学校で見付けた霜柱や水面に張った氷などが地域でも見付けられることに気付くことができる。
- ・地域に目を向けることで、学校では見付けにくい気嵐や結露などの季節の様子に気付くことができる。

### (6) 社会との結び

#### ●地域の自然への働き掛け

- ・「家の周りや通学路ではどんな自然が見付かるかな。」という視点を与えて、よく見てみようとする意識を高め、「地域にはこんな自然があるんだ。」という、概念形成につなげる。

#### ◎普段の遊びへの取り入れ

- ・冬は寒く、外へ出たがらない子どもが増える。それだからこそ、冬の寒さを楽しむ方法を子どもたちと見付けていく。そして、それらを取り入れると生活が楽しくなることに気付けるようにする。

#### ◎四季への理解の深まり

- ・四季にはそれぞれどのような特徴があるかを、生活科の季節に関わる単元を通して感じられるようにし、四季への理解を深められるようにする。

### (7) 未来との結び

#### ●自然を生かした遊びに親しむ

- ・風を使った遊びや氷作りなどに触れることで、寒冷な気候を生かした遊びに親しみ、冬でも外遊びにすすんで取り組むことができるようにする。
- ・本単元の冬の材に限らず、「この季節ではこんな遊びをしたい。」という視点をもつことができるようにする。

#### ●学びを広げる力の育成

- ・学習したことを友達と共有する活動を繰り返すことで、考えを詳しくしたり増やしたりする良さに気付かせる。
- ・自分の考えを友達に理解してもらおう楽しさを感じさせ、学年の友達や保護者へも伝えたいという気持ちにつなげていく。
- ・生活の中での遊びや季節へと興味をつなげていく。

### (8) 自分の心との結び

#### ◎振り返りの時間の設定

- ・学習を振り返る時間を毎回の授業で設定し、めあてをどれだけ達成できたか実感させたり、次にどうしたいかを考えさせたりする。
- ・振り返る際は、視点をもってめあてに立ち返って考えられるようにする。

#### ◎自分の好きへの気付き

- ・活動を記録したり振り返ったりする際は、内容だけでなく感想も書かせる。「冬は寒いけれど、凧揚げや影踏みなどで体を動かすと温まるから好き。」「風をいっぱい受け止めるために工夫を繰り返すことが楽しかった。」「あんなに高くまで飛ぶなんて、風の力はすごいな。」といった自分の気持ちに気付かせる。

## 7 本時の学習／全 11 時間中の第 7 時

### (1) 本時目標

風で動くおもちゃの工夫を友達と伝え合う活動を通して、様々な工夫に気付くことができる。

### (2) 子どもの姿・手だて・期待する変容

前時までの子どもの姿	本時の目標に対する手立て	期待する変容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元では、風を使ったおもちゃを作り、おもちゃや遊び方の工夫を考えて楽しんだ。</li> <li>・風を感じて遊ぶことを楽しみ、思いや工夫をカードに記録した。</li> <li>・工夫をつかんだり遊びにつなげたりすることができていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作ったおもちゃを手元にあって説明に使えるようにする。</li> <li>・前時に書いたカードを用いて、自分の考えを伝えられるようにする。</li> <li>・友達の工夫をカードに書き写せるようにしておき、伝え合う意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の遊びや生活をより楽しくしようとするができる。</li> <li>・風を使った遊びを増やすことができる。</li> <li>・風をつかまえるための工夫を知り、風を使った遊びへの意欲が高まる。</li> </ul>

### (3) 本時の展開

学習過程 (時間)	学習活動 ・予想される子どもの反応と活動	◎手だて ●評価
課題の把握 めあて (2分)	1 めあての確認をする。	◎単元を通しての活動やねらいを教室内に掲示し、何のための活動かを意識できるようにする。 ◎前時の終末で次時の活動を児童と見通して提示しておく。 ◎本時の評価基準を児童と確認することで、本時のゴールイメージをもって活動できるようにする。
見通し (2分)	2 学習の流れを確認する。 「今日の流れと時間を確認しましょう。」 ① 「めあて・ゴール」(4分) ② 学び合い①「ペア」伝え合い①(8分) ③ 学び合い②「ペア」伝え合い②(8分) ④ 「まとめ」(10分) ⑤ 「NEXT」次時の見通しをもつ。(5分) ⑥ 「振り返り」(10分)	◎本時の流れを児童と決定し、ホワイトボードに示して、見通しをもてるようにする。 ◎活動をカード化して児童の意見で柔軟に入れ替えたり付け足したりできるようにする。 ◎時間配分を児童と確認することで、活動中の時間の感覚をもたせるようにする。
学び合い① (8分)	3 同じ遊びを行った友達と伝え合う。 「同じ遊びをした友達ともっと楽しく風と遊ぶための工夫を、伝え合しましょう。」 ・風車は、真ん中をテープで止めないといい。 ・凧は、膨らむようにするといい。	◎机間指導を行い、話合いの進み具合を確認して助言する。 ◎様々な工夫に触れられるよう、各児童が見付けている工夫をカードなどで事前に把握しておく。
学び合い② (8分)	4 違う遊びを行った友達と伝え合う。 「違う遊びの友達と伝え合い、自分の『ぶっく』に入れたい工夫を見付けよう。」	◎机間指導を行い、話合いの進み具合を確認して助言する。

かぜがある日もたのしくあそべるように、  
もっとたのしくかぜとあそぶためのくふうをつたえあおう。

<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 まとめ 「友達と伝え合って見付かった工夫をカードに書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風車は、羽を斜めにするとうまく回る。</li> <li>・風が来る方を向くと、走らないでも回る。</li> <li>・凧は、軽くすると高く揚がる。 「どんな工夫が見付かりましたか。」</li> </ul>	<p>●友達と伝え合って、風をつかまえる工夫に気付いている。(カード・机間指導)</p> <p>◎カードに書いてから工夫を全体で確認し、気付きを増やせるようにする。</p>
<p>NEXT (次時の見通し) (5分)</p>	<p>6 次時の確認をする。 「いろいろな工夫を知ることができましたね。次回はどうしたいですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日知った工夫で風ともう1回遊びたい。</li> <li>・別の風のおもちゃで遊びたい。</li> </ul>	<p>◎児童の思いを汲み取りながら、次時についての方向性を決定する。</p> <p>◎NEXT、振り返りもカードに追記できるようにしておく。</p>
<p>振り返り (10分)</p>	<p>7 本時の学びについて振り返る。 「今日の学習を振り返りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風を使った遊びの工夫を増やすことができた。</li> <li>・次は違うおもちゃで遊んでみたい。</li> <li>・この工夫を試してみたい。</li> </ul>	<p>◎本時で活用した教科についてもカードに枠を用意しておき、簡潔に振り返ることで、資質・能力を結ぶようにする。</p>

【期待する振り返り】

かぜがくるほうをむくとよいことがわかりました。つぎは、かざ車でみんなからおしえてもらったくふうをしてあそんでみたいです。

(4) 板書計画

ふゆのたのしさ 見つけよう

め

①「めあて・ゴール」(4ふん)

②「ペア」つたえあい①(8ふん)

③「ぜんたい」かくにん(8ふん)

④「まとめ」(10ふん)

⑤「NEXT」(5ふん)

⑥「ふりかえり」(10ふん)

かぜがある日もたのしくあそべるように、もっとたのしくかぜとあそぶためのくふうをつたえあおう。

	したいこと	くふう
かざぐるま	もっとはやくまわす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まんなかをテープでとめない。</li> <li>・はねをななめにする。</li> <li>・かぜがくるほうにむく。</li> </ul>
たこ	もっとたかくあげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たこを大きくする。</li> <li>・かるくする。</li> <li>・ふくらむようにする。</li> </ul> <p>・かざりをつける。 →うまくいかない。</p>

ま

ともだちとつたえあえて、かぜとたのしくあそべそう。いろいろなくふうがわかった。

NEXT

もう1かいかぜとあそぼう。

この学びをサポートする地域材

★校庭の自然(もの)

1年を通して

春・草木 夏・砂  
虫 水

秋・草木 冬・風  
落ち葉 氷(雪)

★昭和公園の自然(もの)

(遠足) まぼろし  
どんぐり  
落ち葉

学びの成果発表・表現方法  
活動としてのゴール

新たな疑問 ← 体験して  
考えたことを  
質問 ← 友達とペアで  
共感 ← 伝え合って共有する

自然と触れ合ったことを  
カードに記録する

自然と遊ぶ体験

この学びの経験から育つもの・こと  
期待する児童の姿

すすんで  
伝えて学び  
合う児童

みんなと  
楽しながら  
遊びを創り出す  
児童

寒くても、そのことを生かして  
冬を楽しんじゃおう!

子どもの身近にある  
“面白い” “わくわく” “驚き” “感動”

冬は「寒くて外へ出たくない」  
風・氷・雪

→ どうやったら楽しく  
遊べるかな?  
遊びを工夫、試行錯誤

「テーマ」  
“この単元の肝”

冬でも 外で 楽しく 遊ぼう!  
遊び方や工夫を「きせつとなかよしぶん」  
に集めていき、冬の特徴を生かして  
遊べるようになる!

教師の“面白い” “わくわく”

- 子どもたちが自然に触れ合っ  
て好きになっていくこと
- 子どもたちがどのように工夫し、  
試行錯誤していくか
- 子どもたちと様々な  
遊びを考えて、  
やってみること
- 冬遊びを通して、子どもたちの  
仲が深まること

子どもの本質的な学び  
知識・技能/主体的に学習に向かう態度

知識・技能

- 遊びを工夫したり、遊びを  
創り出したりする面白さに  
気付く。

主体的に学習に向かう態度

- 身近な自然や季節の変化を  
取り入れて生活を楽しく  
しようとしている。

子どものこれまでの知識や経験

- 春・虫探し
  - あさがおの栽培観察
  - 夏・雨遊び
  - 砂・水遊び
  - 秋・秋探し(遠足)
  - 秋のおもちゃ作り
  - リース作り ←
- 種子  
芽  
葉  
つる  
つぼみ  
花  
実